

7. 南詔国の滅亡

7.1 公主降嫁の顛末

発端：876，8月頃 高駢，成都に羅城を築く際，南詔国軍の再来を恐れて仏僧景仙を送る

経過：878 4月 南詔国側は酋望趙宗政を派遣して和親（＝公主降嫁）を求める

12月 趙宗政の帰国に際し，西川節度使崔安潜に返答を書かせる。安潜は崔澹の説を採用

※ここで和親の議はいったん否定された

880 陳敬瑄，西川節度使となり，ふたたび和親の義を取り上げる

中央では盧携や豆盧瑑が和親推進論を展開

※和親と南詔国の「不称臣」を容認する詔が陳敬瑄に降され，安化長公主の降嫁が内定

12月黄巢軍が長安に入城

881 正月 僖宗，成都に到着

※隆舜，宰相趙隆眉、楊奇混、段義宗朝らを行在（成都）に派遣，公主を迎える。

高駢，揚州から「三人者，南詔心腹也，宜止鳩之，蛮可囚也」との謀略を主張

881(?), 882にも公主を迎える使節

※唐側は「方議公主車服」「以方議禮儀」等を口実に先送り

883 7月 南詔国は布燮楊奇肱を遣わして公主を迎える

→檢校国子祭酒張鷟を礼会五礼使，徐雲虔を副使，宗正少卿嗣虢王約を婚使とする使節を組織

→ただしすぐに雲南に向け進発した形跡がない

※『新唐書』南蛮伝，『新五代史』等では僖宗の東還にともない中止されたとする

結局，10年がかりの交渉の結果，降嫁は実現しなかった

7.2 南詔国の衰退

■蒙氏の権威の相対化

唐との関係が蒙氏の権威の源泉となりえなくなる（西川における待遇低下・世隆の冊封拒否）

→軍事遠征 対外的：唐に対する実力誇示

対内的：唐からの高い待遇を勝ち取ることで競合する勢力に対する優位性を確保

※豊祐・世隆期は対唐戦争を強行する力量を南詔王が保持（王嵯巔・杜元忠ら主戦派の支持？）

→隆舜期にはそのような動きは影をひそめる

遠征の失敗？による主戦派の後退 / 滇池地区の地位上昇

→別の方法で南詔王の権威維持を画策（戦後の公主降嫁へのこだわりもその一つ？）

■新たな権威の源泉を求めて

・仏教への傾斜

↓留学生が持ち帰った？

→南詔国後期（隆舜時代以後）におおいに流行（当時成都で流行の密宗：南伝仏教ではない）

史料 7.1 『新唐書』卷二百二十二中 南蛮伝中

會西川節度使陳敬瑄申和親義，時盧攜復輔政，與豆盧瑑皆厚駢，乃譎說帝曰：……帝謂然，乃以宗室女為安化長公主許婚。拜嗣曹王龜年宗正少卿，為雲南使，大理司直徐雲虔副之；內常侍劉光裕為雲南內使，霍承錫副之。及還，具言驃信誠款，以為敬瑄功，故進檢校司空，賜一子官。

史料 7.2 『資治通鑑』卷二百五十五 中和 3 年 10 月

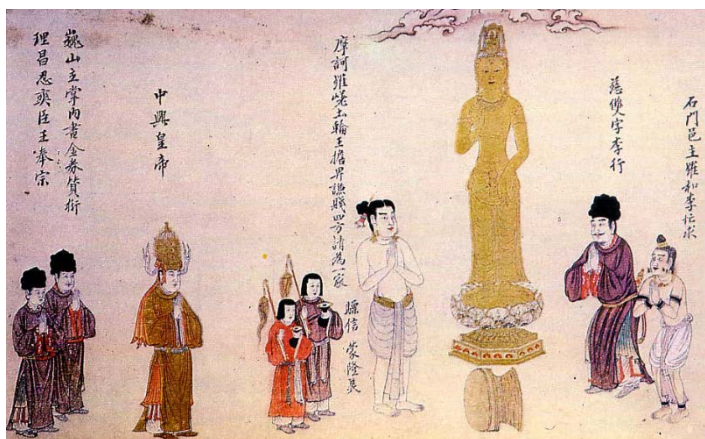
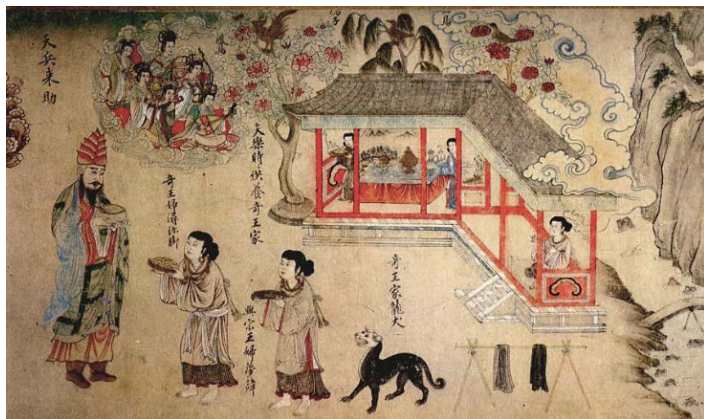
以宗女為安化長公主，妻南詔。

史料 7.3 『新五代史』卷七十四 四夷附録第三

南詔蠻，見於唐。其國在漢故永昌郡之東、姚州之西。僖宗幸蜀，募能使南詔者，得宗室子李龜年及徐虎、虎姪藹，乃以龜年為使，虎為副，藹為判官，使南詔。南詔所居曰苴咩城，龜年等不至苴咩，至善闡，得其要約與唐為甥舅。僖宗許以安化公主妻之，南詔大喜，遣人隨龜年求公主，已而黃巢敗，收復長安，僖宗東還，乃止。

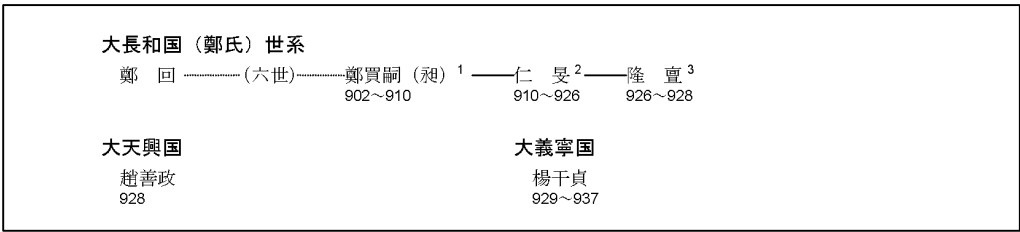
史料 7.4 『五代会要』卷三十

唐中和年，僖宗在蜀，命嗣王龜年使雲南，藹季父為副使，藹為判官。時不到苴咩城，祇達善闡迴，約為甥舅，許降安化公主。雲南使來迎公主，次驛，報收復長安，黃巢東走，乃託以他歲而止。



鐵柱記云初三殿白犬首領將軍張樂盡求并興宗王等九人共祭天於鐵柱側主鳥從鐵柱上飛憩興宗王之爵上焉張樂盡求自此已後益加驚訝興宗王乃憶此吾家中之主鳥也始自忻悅此鳥憩興宗王家經於十一月後乃化矣又有一犬白首黑身龍犬為奇王之家也瑞花兩樹生於舍隅四時常發其二鳥每棲息此樹焉又聖人梵僧未至前三日有一黃鳥來至奇王之家又於興宗王之時先出一士号曰各郡矣著錦服披虎皮手把白旗教以用兵次出一士号曰羅傍著錦衣此二士共佐興宗王統治國政其羅傍遇梵僧以乞書教即封民之書也後有天兵十二騎來助興宗王隱顯有期初期住於十二日再期住

PLATE IV (B): Colophon of the Nan-chao U'-chuan



■ 『南詔図伝』

- ・ 画卷と文字巻からなる巻物（画卷は長さ十九尺一寸五分，紙幅一尺四分）
 - ・ 日本（京都・藤井有鄰館）に所蔵
 - ・ 原本の作成は南詔国の中興2年（898），原作者は南詔王の側近王奉宗・張順ら
 - ・ 現存のものは12世紀頃の複製であると言われる
 - ・ 李霖燦『南詔大理国新資料的綜合研究』（中央研究院（台北）民族学研究所專刊之九，1967）
 - ・ 藤沢義美『西南中国民族史の研究』（大安，1969）
 - ・ 立石謙次「史料研究『南詔図伝』文字巻校注」（『東海史学』37，2002）
- ・ 内容：蒙氏の建国＝張氏からの権力委譲という遜位伝承の創成（「鉄柱記」の引用）
仏教的色彩が濃厚
梵僧から細奴羅・羅盛父子への授記
末尾に「摩訶羅嗟」隆舜が描かれる maharaja?
「西洱河記」：西洱河に対する信仰の取り込み
→南詔王室の正統化が第一の目的

■ 「象徴としての南詔王」？

- ・ 蒙氏が唐からの権威づけを失って以降，実権は楊氏・段氏などの白蛮大姓に移る
- 南詔王は一種の「統合のシンボル」として機能？

7.3 南詔国の滅亡

※唐王朝自体が衰退→権威を付与する能力を次第に失う

- ・ 南詔王の権威の源泉が対唐関係にある，という性格は南詔国一代を通じて不変
- 唐が滅びるとき南詔もまた滅びざるをえない

902 漢人系の鄭買嗣（鄭回の子孫），舜化貞を殺し国を奪う

※ただし南詔国時代に形成された「クニ」としての枠組みは残される

→異なる原理の王権が必要とされる？

7.4 蒙氏を継ぐもの

大長和国（902～928） 鄭買嗣は鄭回の七世孫。舜化貞を弑殺後自立

914 黎州に侵攻

920 頃 前蜀政権に遣使

923~5 南漢に婚姻を求めるところ →このときは降嫁が実現

925~7 後唐，大長和国を招諭 →ここでもまた「頗有思本朝姻親之義」とある

925 「東川節度使」（劍川節度？）楊干貞，鄭氏政権を打倒，趙善政を立てる

大天興国（928） 趙善政「僅か十月」で楊干貞に廃される

大義寧国（929～37） 楊干貞がみずから即位

- ・ 当時の四川は混乱状態（前蜀→後唐→後蜀）→中原側に史料なし

史料 7.5 『南詔圖伝』文字卷

……乃於保和昭德皇帝紹興三寶，廣濟四生，乃捨雙南之魚金，仍鑄三部之聲衆。雕金卷付掌御書巍豐郡長，封開南各張傍，監副大軍將宗子蒙玄宗等，遵崇敬仰，號曰建國聖源阿嵯耶觀音。至武宣皇帝摩訶羅嵯，崇像教眞宗，自獲觀音之眞形，又蒙集衆之金更鼓。洎中興皇帝問儒釋耆老之輩，通古辨今之流，崇入國起回之圖，至安邦俗之化。贊御臣王奉宗信博士內常侍魯望忍爽張順等謹按巍山起因、鐵柱西耳河等記，而略叙巍山已來勝事。

時中興二年戊午歲三月十四日謹記。

史料 7.6 『增訂南詔野史』上卷

舜化貞，唐昭宗丁巳乾甯四年即位，年二十一歲。明年，改元中興。……光化庚申三年，鑄崇聖寺丈六觀音，清平官鄭買嗣合十六國銅所鑄，蜀人李嘉亭成像。一說唐天寶間，崇聖寺有僧募造丈六觀音像，未就。夜忽雨，旦視之，銅也，即取以鑄像。像成，白光彌覆凡三日夜，至今人稱為雨銅觀音。唐昭宗壬戌天復二年，舜化貞卒，一說實鄭買嗣弑之。在位五年。化貞有一子，生甫八月，鄭買嗣主國事，遂啓貞妻曰：「母后深宮，群臣無主，臣當抱太子臨朝。」貞妻是其言，以子付之。買嗣抱子出，潛手傷其陰，子哭不已，乃送回宮中。明日，子死。貞妻疑而詰之，買嗣懷不安，遽起兵殺蒙氏親族八百人於五華樓下，遂篡立焉。

史料 7.7 『鑑誠錄』（後蜀·何光遠撰）卷六 布燮朝。

南蠻所都之地號曰長和國，呼宰相為布燮。蜀後主乾德中，南蠻選布燮段義宗、判官贊衛姚岑等為使入蜀。義宗不欲朝拜，遂禿削為僧，曰大長和國左衛崇聖寺賜紫沙門銀鉢。

史料 7.8 『資治通鑑』卷二百七十四 同光 3 年（925）12 月

長和驃信鄭旻遣其布燮鄭昭淳求婚于漢，漢主以女增城公主妻之。長和即唐之南詔也。

史料 7.9 『十国春秋』卷六十一 南漢四 列伝

列宗女增城公主

增城公主，一作縣主，列宗女也。乾亨九年，長和驃信鄭仁旻遣使致朱鬢白馬以求昏使者自稱皇親母弟清容布燮兼理賜金錦袍虎綬紋攀金裝刀、封歸仁慶侯、食邑一千戶、持節鄭昭淳。昭淳好學有文辭，高祖與遊宴賦詩，羣臣不能逮，遂以公主妻仁旻。明年，仁旻服丹藥死，公主竟終於其國。

史料 7.10 『五代会要』卷三十 南詔蛮（7.4 の続き）

天成元年十月，供奉官李彥楷、高品李光裕雲南使迴。山後兩林百蠻都鬼主、右武衛大將軍李卑晚差大鬼主傅能阿花等來朝貢。明宗御文明殿引對，百官稱賀。拜李卑晚為寧遠將軍，大渡河南山前邛州六姓都鬼主、懷安郡王勿定標莎為定遠將軍。

二年七月，以左金吾衛將軍烏昭遠為左衛上將軍、入蠻國信使。其年九月，西川奏：「據黎州狀申：雲南使趙和於大渡河南起舍一間，留信物十五籠，並雜牋詩一卷。」遞至闕下。初，郭崇韜平蜀之後，得王衍昔獲俘數千，以天子命令使人入其部，被止于界上，唯國信與蠻俘得往。續有轉牒，稱督爽大長和國宰相布燮等上大唐皇帝舅奏疏一封，自鶴拓〔發遞〕歷至幾美白崖爽等，又入弄棟演習，〔自〕〔白〕鸚鵡〔邵〕〔郡〕膳齋爽等，又入平夷、新安、寧遠、標莎，差人轉送黎州，其紙厚硬如皮，筆力遒健，有詔體。後有督爽陀魯忍爽王寶、督爽彌勒、忍爽董德義、督爽長〔垣緯〕〔坦綽〕忍爽楊布燮等所署，有彩牋一軸，轉韻詩一章，章三韻，共十聯，有類擊筑詞，頗有思本朝姻親之義。語亦不遜。其籠中即返其國信，舊封猶存。復命左衛上將軍烏昭遠往，皆不能去。